

MONTHLY MAGAZINE KOBEKKO APRIL 1961 NO. 2

郷土を愛する人々の雑誌

# 神戸っ子



4月号

K. Tamura

HILLMAN MINX *Hi Style*



兵庫いすゞモーター株式会社

神戸市葺合区雲井通4の15

TEL(代表) ② 4751・6121

■芦屋ゴルフ場にて



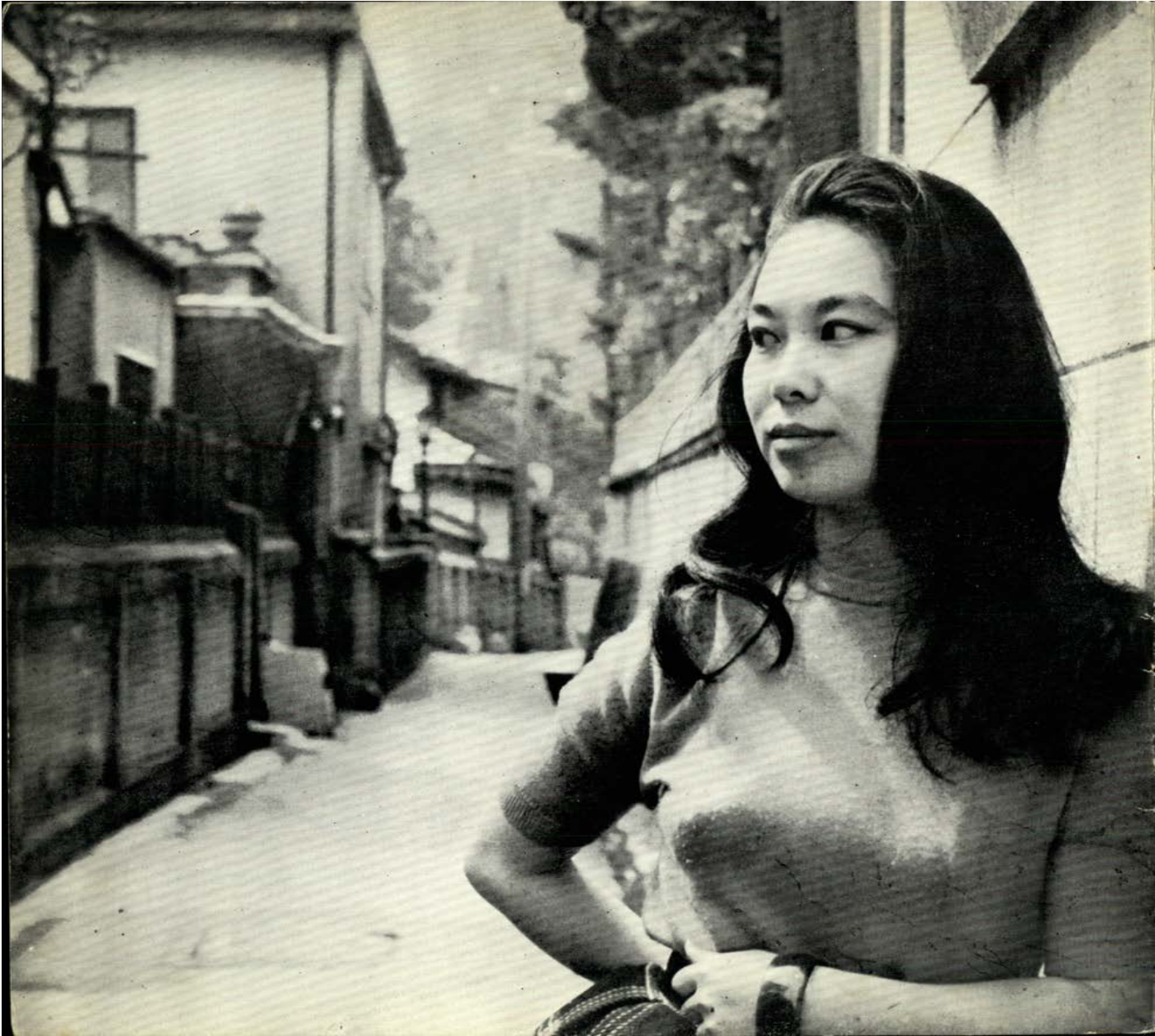
これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

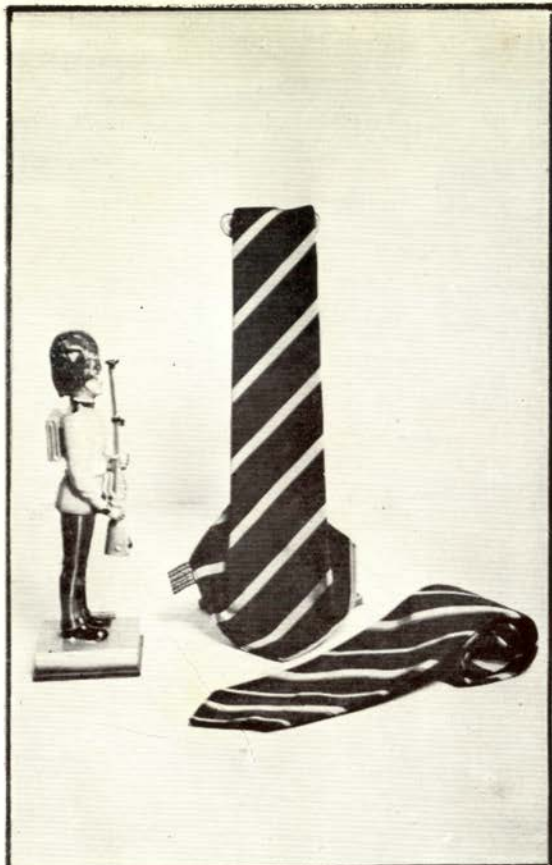
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です









ネクタイの  
**元町バザー**  
 神戸 × 元町



**北村パール**

北村眞珠株式會社

神戸／元町2・東京／スキヤ橋センター  
 TEL・③ 0072 (571) 8032

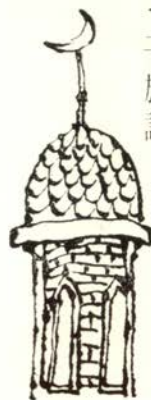


## 四月目次

PHOTO / 神戸の女性・衣川宏	1	写真特集 / ボクも神戸っ子・竹崎譲司	25
神戸っ子放談 / 幼き日の思い出・岡崎真一	4	座談会 / ハイ・センス神戸・福富芳美ほか	29
随想 / ひなげし・亀高文子	6	オシャレのメモ・北上弥太郎	31
ピカソ・小倉敬二	7	神戸とわたし・木田よし子	33
ホームスケッチ / 榎並正一氏とその家族	8	KOBEKKO SHOPPING GUIDE	34
随想 / 神戸と万才・秋田実	10	特集・世界一うまい神戸の中華料理	38
随想 / 僕の愛する神戸・朝比奈隆	13	洋酒はなしのたね	44
一つの思い出・山口清介	14	BONSOIR' MADAME	45
母のやっていた店・藤本義一	14	一店紹介・サノへ	46
男性の心理・青木重雄	15	連載小説第1回 / 波止場・細野耕三	47
連載「ここに神戸がある」		PINK CORNER	50
①ハイカラの伝統・司馬遼太郎	18	THE SECOND COVER	51
花時計・レリーフ / 松井高男・伊藤誠	22		

表紙 / 田村孝之介・カット / 中西勝・写真 / 杉尾友士郎・米田定蔵・千原祐二・デザイン / 橋昭三

## 神戸っ子放談



## 幼き日の想い出

岡崎真一

神戸商工会議所の会頭室には、神戸っ子画伯小松益喜氏の力作、「英三番館（五十号）」がかげられ、にぶく光っている。

岡崎真一氏は、いうまでもなく国政に参与する人、百戦の英雄らしき貫録は十分だが、今日ばかりは、ユニークな神戸っ子スタイル、千田是也ばりの童顔をほころばして、「今日は難かしい話はなしにして、神戸っ子になつてしまふよ」といいながら話された。

## 幼なき日の諏訪山

海と山が神戸を代表するんだが、その神戸で一番、神戸らしいのが諏訪山だと思っている。

あの諏訪山の中復西寄りに、赤い屋根の洋館があるだろう。あれが私の生れた家なんだ。親父が建てた家なんだが、今は飯野さんにお譲りして寮になってるらしいんだがね…。

小学校は諏訪山尋常小学校だよ、だから諏訪山界隈も想い出は懐かしいね。

あの辺には「ため池」がたくさんあってね。ふきんに県立女学校や山手に頌栄幼稚園、その西あたりに、いまは小林に変わった神学校があったりしてね。

当時、私の家近くに稲荷さんがあるだろう。寒中に、支那の人が、この稲荷さんに行列を作つて、あげ・おこ

わを手に、「施行、施行、ノーセギョー」と唱えながらお詣りするのをよく見掛けて、異様な印象として残つてるよ、稲荷はお狐さんだろう、商売の神様だから華商の人がお祭りしてたんだろがね…。

## 居留地風景

居留地あたりは、まず神戸の雰囲気がいちばん強く出ていたよ、私もよく憶えているが、この画のトムソン商会、オリバー・エパンス、それぞれ各国の領事館等のしやれた洋館が並んでいて、外人がゆったり散歩しているといった異國情緒は、私の青年時代の心に深くしみこんでいるような気がする。

戦災で焼けてしまつて、あのエキゾチックな味も消えてしまったようなものだ。いま残っているあのころの建物といえど日綿実業のビルぐらいのものだろう。

町全体として考えて見ても、神戸が開港場という名で栄えたこの名残といえど北野町あたりだろうな…また居留地という雰囲気がいしらへ上げた神戸スタイルというのは確かに他にないようだ。洋服でも割合色彩の薄い、いわゆるパステル・カラーや替えズボンが似合う土地柄なのだ。東京あたりの黒っぽい洋服の多い土地柄と全然違うように思えるんだ。

## 忘れられない開港場風景

そのころ鉄道はまだ、高架になっていないころだ。「一番の踏切」これが鯉川筋あたり、「二番の踏切」がモダン寺あたり「間の踏切」が花隈のあたり、いまの花隈の治作の上あたりに社交クラブの神港倶楽部があつて、玉突場や特売場になったり、音楽会もあつたりしてさかんだつたね。

港町風景は中突堤、国民波止場のふきんだ。いまでも残っている西村旅館とか、後藤回漕店とか、その他移民宿が並んでいて、活気のある雑踏のなかで、面白い情趣があふれていた。食堂には、ハワイ帰りの人がいる、移民



の人が、力車英語で、「水を呉れ」を「ワター」とやっている。とにかく、海外との連絡場所として活況を呈していたものである。力車英語といえは、現在の駐留軍相手のボン引英語とにたもので、人力車の車夫が盛んにやっていたものだ。それにしても現在の神戸に、エキゾチックな風情が薄れて行くのは淋しい。またいままでと違った神戸情緒を近代的なエキゾチズムを盛り上げたものだね。

### 神戸を美しき玄関に

海外から見れば神戸は日本の玄関になる。神戸初めての印象がひいては、日本の印象になる訳だよ。



神戸商工会議所会頭室で語る岡崎真一氏  
参議院議員・神戸商工会議所会頭  
同和火災海上K.K.社長  
神戸国際会館K.K.社長

ちょうど県市そろって、花いっぱい運動が展りひろげられ、花のある町にしようという運動は賛成だ。  
私は今日も、ある集会で、「神戸を日本の玄関にふさわしい明るく楽しい町にみんな力をあわせよう」と提唱した。家庭の入口に立ったとき、その家に花があり、明るさがあればどんなにかいい印象を受ける。その為には、神戸の町をもっと明るくしなくてはいけない、街路に灯があれば市全体がもっと明かるくなるだろう。神戸を愛する人々がみんな明るい町づくりに参加してこそ、美しい日本の玄関が生まれることになるだろう。

(文責 小泉康夫)





# ひなげし

洋画家 / 亀高文子

毎年、春の彼岸ともなれば、私の庭は百花の園ともいえる美しさになる。

しかし今年は、あのきびしかった寒さのために庭の花のつぼみは固い。木蓮も、山吹も、ミモザも木瓜（ボケ）も、いつ咲くとも知れぬ固さである。

せめて草の花でも咲いていないかと、さがし求めながら庭を眺めていると、ハッと赤いものが目にしみる。近よって行くと、なんと「ひなげし」が一輪、真紅の花を春風におどらせている。

ここに種子をまいた覚えは、私

にはない。去年の種子が、ここにこぼれ落ち。土深く埋まって、こうして咲いているのであろうか。

— その生活力のたくましさ  
自然の恵みと愛撫 —

今さらのように驚かされる。

春の太陽のもとに、手をいっぱい差し出しているように見える。

こうして私は、春ともなれば、何か草の芽は出ていないかと、庭中くるくると見てある。

春浅く花にとほしき庭ながらこの一本のひなげしぞあり

描かんと絵筆とる手にひなげしの花はくづれぬ春風とともに



# ピカソ

小 倉 敬 二

またまたピカソが結婚したらしい。

ピカソは当年七十九才。花嫁は三十九才だ。たいした精力である。ピカソは現代世界画壇における不滅の焰、不滅の光りである。常にエネルギッシュである。

ピカソといえば、一般にバプロ・ピカソで通っているが、実はバプロから始まって、ピカソに終るまでがたいへんだ。デイゴ・ホセ・フラシスコ・デイパウラ……といった調子で、親の名からおじいさんの名、母方の先祖の名まで読みこんである。一人名か、数人名か、戸惑うくらいである。だから恋人も十人で足らず、女房も三人ぐらいでは足らなかったであろう。先妻との間にこどもが二人ある。前の妻君もたしかモデルだった。若くして美しくって——こんどの奥さんも実に美しい。あのしなやかな腰をピカソのあの毛深い逞ましい腕がぐっと力強く抱きあげるのだ。うらやましいな、などと下品なことを言うものでない。

オールド・バアというウイスキーの商品名にまでなったイギリスのバアじいさんは、人妻とよろめき、姦通罪で訴えられたが性力絶倫、百二十何才まで永生きした。青春とこしえに老いず、というんで、ウイスキーにその名を冠したのだから。

禅の山本玄峰老師はことし九十五才だが、さいきん「無門関」の名著を出された。大道は無門、千差路ありだ。一芸一道に秀でた士は、道が違っても、どこかにすぐれたところがあるんだらう。

ピカソは共産党員である。

かれが共産党入りをしたとき、ユマニテの記者が、「先生、画の方はどう変るでしょうか」と聞いたところ、彼は、「靴屋さんが王党だろうと、共産党だろうと紙の打ちかたには変りはないじゃないか」と言下に答えた。

ピカソはピカソだ。画はオレ独自のものだという強い信念からである。スターリンが死んだとき、彼は党から頼まれてスターリンの肖像を描いたが、例の調子で大胆奔放にやつけたものだから、スターリンの尊厳を冒読したといって、クレムリンから叱られ、それに反撥して「バカもほどほどにしろ」

としりをまくったこともある。すさまじい意気だ。彼は好んで鳩を画く。ハトは平和の象徴である。しかしピカソの描く鳩はいつも翼が折れたり、尾がちぎれたりしている。いわゆる「傷める鳩」だ。それは傷める平和にたいする抗議なのかもしれない。

(神戸市史編さん委員長)



# 春は家族そろってドライブ

(阪東調帯K・K副社長)

榎並正一氏とその家族

ご主人の榎並正一氏(49)は、諏訪山生まれの生粋の神戸っ子。

うまれてすぐ須磨離宮近くの桜木町の家に移って現在まで、学生生活の何年間を除いた他は全く神戸の人。

「今さら神戸を語るといふわけにもいかんだろう。神戸は果みたいなもんだからな……」

そうだな、い の家の少し上あたりに広場があつてよく野球をやつてたもんだ。竹中郁さんもよく野球をやつてたよ。あの人、ちょっと変つたのが好きだから、みんなが黒の靴をはいているのに、たしか彼一人だけが赤い靴をはいてたよ……。僕より上だけど覚えてるよ」(笑)

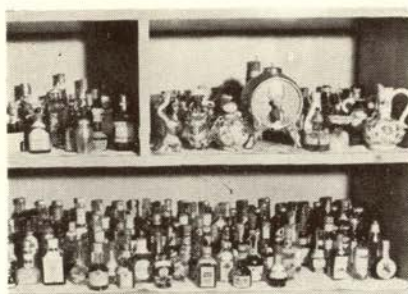
学校は須磨浦小から三中、慶応のコースで、学生時代を過ごされている。

「ちようど、広野ゴルフ場から帰ってきたばかりなんだが、ゴルフのことはあんまりいたくないんだよ……」

なにしろ、ゴルフ歴ときたら途方もなく古いんだが、いっつこうに腕の方がいっしょについてきてくれないんだ」とニッコリ笑われた精悍そうな顔つきに、笑いのはいつてくると途端に柔らかな人間



歓談される榎並正一氏夫妻



辛子夫人ご自慢の洋酒ミニイチユア

味のゆたかない顔になってしまわれる。

辛子夫人(41)はすてきな近代美人「ゴルフにいっしょに出かけたころもあったんですけど、私もあまり上手でないの、夫婦でゲームに出場するときはきまつてビリ」と笑って話される。

ご主人も奥さんのご自慢は洋酒のミニイチユアだろと、書棚にいっぱい並んだミニイチユアを指して説明される。

「せんだって、テレビで同じように洋酒のミニイチユア収集家を紹介していたんだけど、その人のミニイチユアより多いので感心したんだよ」とご主人もテレビを見られてからだいぶん自信をもたれたらしい。

辛子夫人にそのきっかけをききますと

「最初、外人の店の方から五、六本いただいたミニイチユアを並べているうちに、だんだんふえていま一八〇本集まつてしまつたんですの」ということ。

「お子さんたちはーとお尋ねしたら、ご主人は気軽に春休みに帰省中の長男、正三さん(20)と、お嬢さんの元子さん(15)のお二人を紹介してくださいました。正三さ



(写真左から正三君・幸子夫人・元子さん・榎並氏)

んは、慶応の経済学部の子生さん  
 こんと二年に進級、立派な体軀は  
 お父さんゆずり。元子さんは、小  
 林の聖心女学院中学部の二年生に  
 お兄さんとそろって進級。  
 ふっくらとした、上品で可愛い  
 お嬢さん。お二人とも、明かるく  
 て、くっつくなそう。  
 正三さんは、慶応で鉄道部に籍が  
 あり、車輛に関する知識は相当な  
 もの：

「日本の車輛は狭軌では一流だけ  
 れど、いささかみみっちい」と  
 と批評もなさる。どうもお子さん  
 たちにとっては、幸子夫人の方に  
 少し点がいいようだ。

ご主人は「それはドライブをしよ  
 っ中、いっしょにやっているから  
 だらう」と逃げられた。

幸子夫人は、自分で運転される  
 そうです。

オーナードライバーとしての経験  
 も立派なものらしく、

正三さんが

「僕も運転はできるんだけど、  
 お母さんの方がうんとうまい」  
 と文句なしに賞讃を贈るあたり十  
 分察しがつく、

お嬢さんが「あっそうだ、ケリー  
 を忘れていたわ。」

犬がいるの。ボクサーで一年と四  
 ケ月ほど、血統はアリトレス」

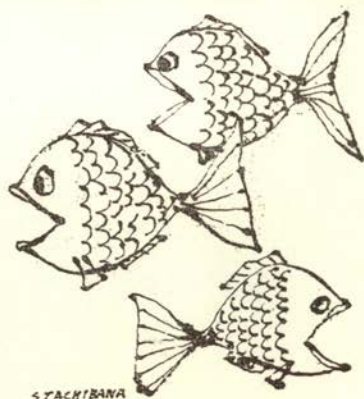
ボクサーという犬は、随分愛敬  
 のある犬だから、家族みんなに可  
 愛がられているらしい。

榎並さんのご家族は、愛犬ケリ  
 ーを含めて、健康で明かるい団  
 樂を楽しんでいらっしゃるよう  
 でした。



# 神戸と漫才

秋田 実



漫才の発祥地は神戸である。発祥地と言うのも妙な言い方だが漫才は最初から今のような形ではなかった。

最初は、日露戦争の戦勝気分で盆踊りが例年より盛んに行なわれたその盆踊りの音頭だけが、踊りと切り離されて興業化されるようになった。終戦後ののど自慢大会が盛んになって行った経路と似ているが、その音頭の興業がなかなかの人氣で、音頭の代表は江州音頭と河内音頭の二つであった。

当時は東京の浅草の奥山でも、江州音頭の興業が圧倒的な人氣をおさめていたし、東京以上に本場の関西では江州音頭と河内音頭の興業が盛んであったし、また当時は今の歌謡学校と同じように方々に稽古所ができて、みな音頭を習いに行っていたものである。

その二つの音頭のうち、河内音頭は興業の最初から三河万歳の太

夫の才藏の形式をとり入れて、「万歳」と名乗っていた。この二つの音頭が、言わば漫才のはじまりで江州音頭も後には河内音頭の「万歳」に合流するようになったのである。

この二つの音頭の「興業」としての発祥地が、神戸の新開地なのである。

今までの話は、日露戦争が終つてからのことで、漫才の歴史もそれ以来ということに普通なっているが、実はもう十年前、日清戦争の終つた後で、この音頭の興業が新開地で行なわれているのである。そしてたちまち新開地で人氣をあふりはじめたが、その時は内容が余り卑猥に過ぎるといので、当局からの命令で興業が禁止になつてしまつたのである。それから十年中断して日露戦争後である。日清戦争後の時には江州音頭の方が興業の主流であつたが、日露戦

争後は河内音頭の「万歳」が中心となり、「万歳」に江州音頭が合流した。太夫と才藏の形式の中に今日の漫才への発展性があったのであろう。今度は、新開地ででも興業禁止を喰わないで、着々と新しい娯楽としての人氣を培つて行った。

はじめは、いろいろの演芸の間に混つての出演であつたが、はじめて漫才だけで興業するようになったのは新開地であり、また、最初は一流といわれる大劇場で漫才大会を演つたのも、新開地の大劇場であり、その時は新開地の他の劇場は大騒ぎであつた。

そういう意味で、漫才を発展させたのは大阪であるが、発祥地は神戸である。新開地で、庶民大衆に愛されて、漫才はその形を整えて行つたのである。だから、漫才の名前にしても「丸」と「丸」が多いのは、港に出入りする船名の「××丸」にあやかつて付けたもので、その発祥当時の名残りである。

(作家)

神戸の香り  
港の風味…

送ってもこわれない  
ゴーフル

65年の伝統

マロン・グラッセ

ココアキャンデの突堤

コウベ・ピアー


神戸・元町三

 且月堂

創業 明治三十年

TEL. 神戸 ③ 695・696



 柴田音吉洋服店

神戸・元町通四丁目 ④ 0693

大阪・高麗橋二丁目 ②③ 2106





高級紳士服地

**ミック  
リファインテックス**

Mikimoto Pearls



春の優雅な装いに…  
ミキモトパール



御木本真珠店

神戸店・神戸国際会館内 Tel. 2-0062

大阪店・新大阪ビルヂング内 Tel. 36-0220

本店・東京銀座四丁目 Tel. 535-4611